

板倉政要

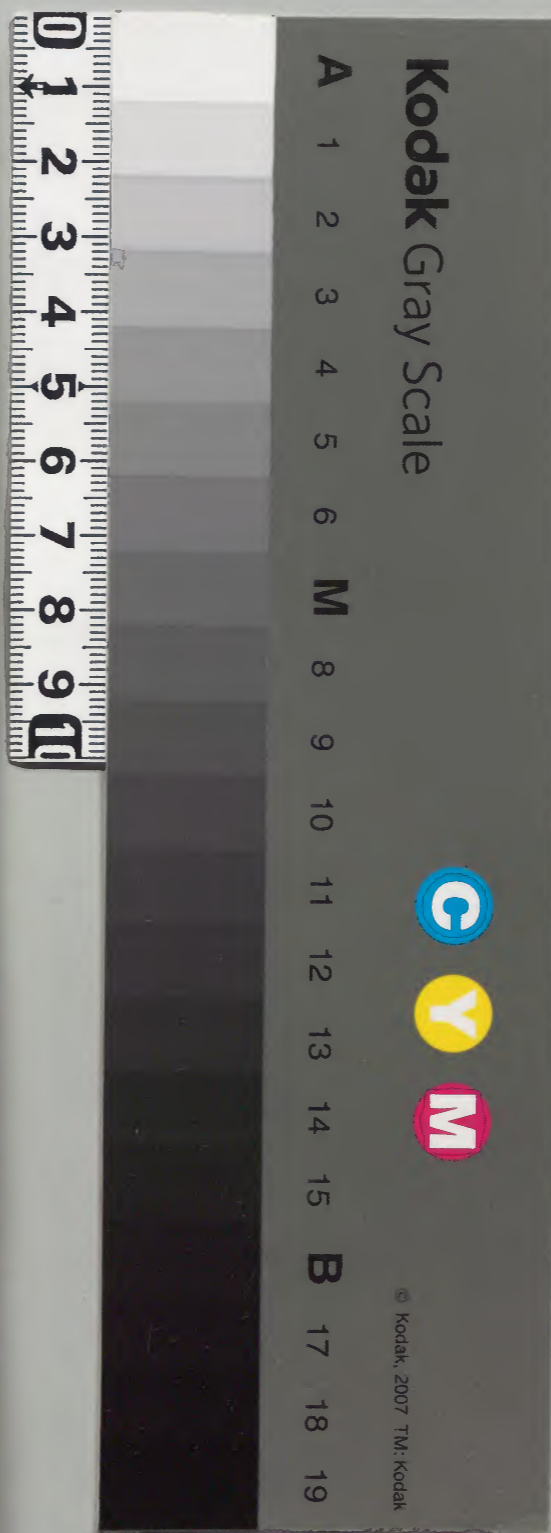
至自
八七

四

和書門			
二五二七號	九七函	七架	五册
類			

内閣文庫		和書
二五二七號	五册	類
一八二函	一〇架	

内閣文庫	
番號	和 25227
冊數	5 (4)
函號	182 296



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

板倉政要卷第七

目錄

田地公事

質物公事

法華坊主之事

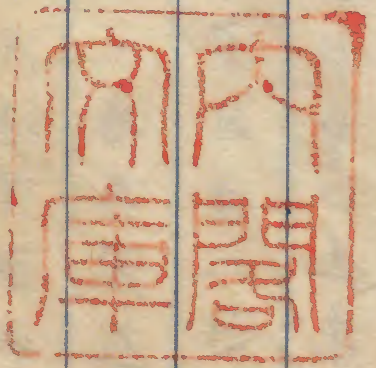
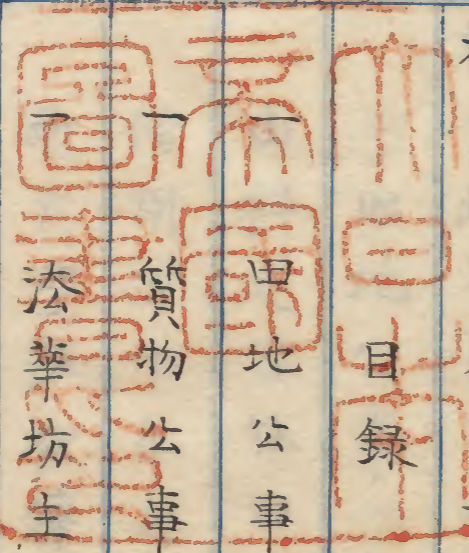
一 淨土宗誑人娘事

一 依孝心蒙宥免商人之事

一 下人手討之事

一 家督論捌之事

一 野合草刈場論之事



明治十年...

内務省

- 一 下女懐妊公事
- 一 義綱之弟家督被下事
- 一 犬ヲ殺密通路頭之事
- 一 間男忽穿鑿露頭之事
- 一 妻女公事捌之事
- 一 聖人公事捌之事

此等之事
 其類
 其類
 其類
 其類
 其類

板倉政要卷第七

田地公事

山科之百姓田地五反入質ニシテ金ニ拾五兩
 借用シ十年之年季ニ預ク置ケル借十年之年季
 過ケレ共本金ニ拾五兩之才覺ナラサレハ是
 非ナク三四年ヲ經ケル處ニ腸ヨリ金五拾兩
 ニテ永代ニ右之田地可申受ト望ニ付幸ヒ之事ト
 思ヒ入質之百姓へ訛言シケレ共本金ニ拾五
 兩ニ四年之利ヲソへ返弁候ハ、無異儀返ス
 へシ約ソクノ年季過タルニ付テ本金返弁候

へ田地可相渡ヨシ申達シケルノ處ニ免角ノ
沙汰ニ不及延引之条今更脇々工能口在之ト
テモ無左右返事ハ不相成カ^コシ返答入田地主
ハ四年之間作り取ニシ其上利銀迄ソへ返弁ス
へキ道理ナシトテ互ニ争論シ下ニテ博^博明サ
ルユへ伊賀守殿工訴へケル板倉殿被聞召仰
ニハ凡田地之事ハ十年切之入質ト相定メ置
永代之賣買ハ不相成左様ニ心得候へ諸田地
預リ主金子之利足ニ不合迫地ヲコマシヲ入
下草等迄毎年入漸ク近年ハ上田ニ作^作リナシ夕

ル条金子ノ利足ヲ取候テ田地返シ渡サント
申^コト勿論左モアルへケレ共夫ハ其身カ不
目利故ニ迫地ヲ預^預損ヲスルナリ十四年之年
季ト思ヒ本金ニテ早々返スへシトナリ依之
本金ニテ田地ヲ返シケル夫ヨリ以來讓^讓リ狀ニ
テ五十兩之金子ヲ請取永代ニ田地ヲ渡シケ
ル此時ヨリ讓狀ト書サレハ永代ニハ不成ナ
リ故ヲタツ子テ新ヲ知ルトノ仰^仰マナリ

質物公事

洛中四条通り御旅之質屋へ多年受人ヲ立質

物ヲ置ケル町人アリ或トキ金拾兩之質物ヲ
持參シ右之質屋へ申ケルハ此道具ハ當分之
コトナリ追付金子國元ヨリ着次第五六^三日之
内受ケ可申由ナリト断ルニ依テ任其意金子
拾兩渡シケル然ル處盜物之由届ケ來ルニ付置
主へ沙汰シケル内ニ町司代へ早訴へケル依
之置主質屋被召出御センサク之處ニ置主申
ケルハ此品々拙者肝煎賣拂ヒ可遣ト請合預
置候處ニ此節勝手不如意ニ付テ當坐之用ニ
立追付受返シ返弁スへキト斗ラヒ候處ニ道

具主早速聞付上聞ニ達ルコト無是非次第ト
ソ申ケル質屋へ御尋之處ニ右之通ニ無相違ハ周
防守殿仰ニハ不届ナル仕方ナリ盗人同前ナ
リ然リトイへ共淳ニ申上ル之条一命ヲ助ケ
玉フソ先籠舎可申付トナリ其後カノ質屋ヲ
被召出仰ニ數年質物之取遣シ律義ナルモノ
トテ金拾兩ニオヨフ質物ヲ請ナシニ取コト
不念ナリ其料^通レガタク質物ハ不殘本主へ
返渡スへシトノ儀ナリ畏テ返シケル其後又
質屋ヲ被召出仰ニハ彼カタリヲシ質ヲ置ケ

ル町人ヲ其方ニ下シ玉フル賣候テ成トモ又
ハ奉公為致テ成共金子ニ可仕トテ被下ケル
泰トテ請取歸リケレハ妻子等有之者ユヘニ
召仕ニモ不成奉公為致ヘキヤウモナケレハ
五七日育死シ遣シケル京童モ此由ヲ聞テ
盗人ニ方ヒ錢トハ此事ナルヘシト笑語ス
法華坊主之事

洛外之法華僧侶内々密通シケル女ヲ肝煎シ
テ他村ヘ縁付遣ス處ニ不縁ニテ立歸リケル
彼法華坊主後又余之女ト密通シケル故ニ初

メ之女聞付テ互ニ嫉妬シケル去ホトニ此事
粗露顯ニ及ヒケレハ法華坊主今ハ角ト思ヒ
弟子ヲ近付テ云含メケルハ我不儀之事大形
公儀ヘ洩レ聞ユルト覺ルソ然レハ憂目ヲ見
ンコト近々ナルヘシ死ヲ許容シテクレヨト
頼ミケル弟子聞テ尤ニテ侍レ共死人ニ口ナ
シトイヘハ殺害シ後難如何ト申ケレハ其儀
ハ心安ク思ヘトテ一通ノ遺書ヲ與ヘケル此
上ハトテ殺害シケルコノ事何故トモ不知殺
害シタル人モ不知ハ板倉殿弟子ヲ召サレ憂

目ニ逢ンヨリ速ニ白狀セヨト仰ケレハ畏テ
右件之通り白狀ス依之密通之僧再ヒ両女ト
モニ首ヲ刎テ獄門ニ梟ス弟子ハ遺文ヲ持ト
イヘ共師殺ス科大逆ナリトテ是モ死罪ニ行
ハルトナリ

京師寺町浄土坊主誑人娘之事

洛寺町之僧近隣之商人ノ娘ト密通シケルカ
不得已彼娘ヲ盗出シ京師ヲ立退場ヘ往テ醫
者ト号シ渡世ヲ送リケル十月ホト經テ近
所之モノ見付テ父ニ告ケルニヨリ所司代ヘ

訴ヘ早速京洛ニ捕ヘ來リ板倉トノヘ申上レ
ハ伊賀守ト人彼僧ヲ呼出シ仰ニハ其方ハ長
髮ニ見ユルカ還俗シタルカト問セ玉フ處ニ
彼僧答ケルハ還俗不仕候此女養父不義之心
入在之ニ依テ母之オモワク他人之嘲リヲ思
フ故ニ拙僧ヲ強頼ミニヨリ無是非召連場ヘ
立退申候還俗不致ヨシ固辞ス其時又彼娘ニ
尋玉ヒケルハ還俗シタルト見ヘタリ真直ニ
申上ヨ出家トハ云カタシト仰ケレハ娘申ケ
ルハ此僧之申サル、ゴトク養父執心ヲ懸ケ

明暮悩サレ迷惑ノアマリニ此僧ヲ頼ニ塚へ
立退キ忍ヒ居故ニコノ出僧^家モ難黙止如斯ト
イヘ共還俗ニテハ無之由陳シケル公ホドニ
所之者共ニ巨細尋サセ玉フ處ニ密通無疑ニ
ヨツテ沙門之法ヲ背ク之条不便ナガラ斬罪
ニ行フヘキ旨ニテ粟田口ニ梟スサテマ夕養
父コトハ娘ニ執心ヲ懸ルコト紛レナキニヨ
リ所ヲ追放シ彼女之母ニ家屋敷ヲ取ラセケ
ル母之連テ來タル娘故ニマ、子ナリケルナ
リ

依孝心蒙宥免商民之事

東山祇園之茶屋之亭主小科ニヨツテ閉戸サ
セラレケル大概輕科之輩ハ七八日ヲ經ケレ
ハ所之者共愁訴シ赦免ヲ蒙リ戸ヲ開ラカセ
ラル、例タリトイヘ共此者平生所之者共ニ
ウトマル、コト也^ヤアリケン一ヶ月ヲ經ケレ共
取持^所司代ヘ愁訴ニ出ルトモガラモナク因
茲家内悉ク飢ニ及フ仕合故今三日ヲ過ハ餓
死スヘシ妻子下人ハ免モ角モナレ共老母之
飢ニ及フ事モダシガタク思ヒ身命ヲ捨テ壁

ヲキリ抜野司代工直訴ニ出ケル此由板倉殿
聞届玉ヒ老母ノ飢ニ及フコトヲカナシニ身
余ヲ抛直訴ニ出ケル孝心ヲカンシ玉ヒ閉戸
ヲ御免アルノヨシ仰有テ借町之年寄十人與
ヲ召シ寄ラレ仰ニハ凡小科之輩ヲ閉戸以後
五七日ヲ經テ同町之者愁訴ニ出ルノ例ヲ汝
等ハ又彼者ト不挨拶ニ依テ理ヲ曲テ延引ニ
及フコトヤ惣シテ人之長タル者ハ仁ヲ本ト
セザレバ悪事モ絶ル事ナシ不届ナルシカタ
言語同断ナリ向後相嗜ヘシ重テ如此之不義

ヲナサハ年寄十人與トモニ急度曲事ニ申付
ヘシトノ儀ナリ京童モ傳聞テ難有野司代哉
万々歳モ此人ヲト^歡歎喜シケルトナン

下人年討之事

京洛之商民召仕ヲ年討ニシケル處其眷属共
ヨリ下手ト言ナガラ理不盡ニ年討ニ仕候由
伊賀守殿へ訴へケル依之板倉殿彼商民ヲ被
召寄仰ニハ町人之身トシテ從僕トハ云ナガ
ラ年討ニ仕ルコト不可然コトナリ乍去無據
子細ニヨツテ仕ルヤ又下人カ一類共愁訴之

通リ理不盡ニ仕ルヤ委細ニ申分スヘシトナ
リ町人謹而言ケルハ一朝之怒リニ仕ルニア
ラス平生共ニ不作汰仕ルトイヘ共長袖之身
ナレハ堪忍致シ宥免ニテクラシ申ノ處此度
ハ私ニハム仍舊文ハ仕候故無是非手討ニ仕候町人
トハ申ナガラ下人ニ打擲セラレ候テハ後日
ニ如何様ニ御仕置被仰付候テモ無本意奉存
思ヒ儲サル働キ仕ルノヨシ申ケレハ板倉殿
聞届玉ヒ尤トハ言ナガラ町人之手討ナレハ
先蟄居サスヘキノ旨町ノ年寄與之者共ニ被

仰付退去ス偕五七日過テ被仰觸ケルハ手討
之子細尤ニ思召之間免許スヘシ重テアルヘ
キコトナリ洛中洛外共町人共猥ニ下僕ヲ手
討スヘカラス此者儀ハ平生之行跡今度仕方
顕然タルニヨリ御免之由ナリ從僕等モ主人
ヲハ兄弟ノゴトクニ重スヘシトノ仰ナケリト
ナン

家督論捌之事

京師七条之商人實子一人有之トイヘ共奥州
へ年久敷商買ニ下リ五六年モ通路ナケレハ

生死モ知サリケレハ依之娘一人有之ニ入人
ヲ取テ家督ヲ譲リ隱居シテ程ナク病死ス其
後奥州ニ在留之嫡男聞テ京都へ馳上リケル
處智養子ニ家督悉ク譲リ與へ遺書等モ慥ニ
有之儀ナレハ同町人年寄十人與一門眷^属共ス
ヘキヤウナシトイへ共正シキ實子ナレハ家
督ヲ續へシト云テ諍論ニオヨフトイへ共右
之通り顕然タルニヨリ下ニテ不^博明故ニ彼
實子直訴ニ出ケル周防守殿仰ニ其方事實嫡
ニ紛ナキ事ナレ共多年奥州ニ在テ生死夕モ

知レサレハ養子智ニ家督譲リ與へタルコト
忬ナリ申分アリヤト尋玉フトキ彼者申ケル
ハ私事ハ悪人何某カ子ニテ侍ルト申ケル極
倉殿此一言ヲ聞テ暫時思慮有テ此公事^博明
夕リ宿野へ歸ルヘシ跡ヨリ御沙汰アルヘシ
トノ仰ニテ彼者ハ退去ス其後同町之年寄ヲ
被召寄右雙方論之家督之コト實嫡ニ金銀資
具以下迄半分分配スヘシ彼者奥州ニ在テ商
賣ニ滞リアル故ニ無是非年ヲ累ルト聞ヘ夕
レハ強テ不孝トモ云カタシ彼モノ申如ク重

悪人之子タランニオイトハ普天之下ニ安座^座
スルコトハナルマシケレハ言所尤ナリ角イ
エハトテ父之勤氣ヲ蒙リタルモノ或ハ追放
等ノ子細有之族ハ各別ナレハ向後左様ニ可
心得仰セナリ京童モ此ヨシヲ聞テ^聴聰明之捌
トカンシケルトカヤ

野合草刈場論之事

丹波國八上之者野合馬之草刈場往古ヨリ入
相場^近ニ近年洪水ニ入相之道筋水損シケルニ
ヨリ八上ヨリ道ヲ作り直シ候ヲ見トガメ入

マシキヨシ^争論不得已所司代正許ヘケル
方之訴狀披見有テ内詮義有テ両村之百姓ヲ
白砂エ被召出ケル處ニ池上村之百姓共弁舌
者之浪人ヲ雇ヒ公事場へ出シケルニ依テハ
上之者白砂へ出テ申ケルハ其方ハ承リオヨ
ヒタル弁舌者ニテ此者池上村へ米一石ニテ
公事之物言ニ雇ハレタルヨシ慥ニ聞届タリ
此方ノ事モ能ク云テ呉候へ^左アラニオイト
テハ一石五斗ノ米ヲ送ラントソ雜言シケル
板倉トノ此ヨシヲ聞玉ヒ御穿鑿ノ處ニ果シ

テ池上村ノ郷人ニアラス依之仰ニハ此野公
野^事ハ往古ヨリ入相ノ草刈場ニ無疑双方之論
ヲ聞ニ不及子細ハ我ニ非アルヲ以テ他ノ口
給ヲ求ムル^也次ニハ公儀ヲ輕シメ池上村
之住人ト号スルコト旁以一廉曲事ニ行ハル
ヘキ儀ナリトイヘ共下民之分際ニハ相應ノ
謀斗^計ナリト思慮スルユエニ宥免ヲ加フルナ
リトテ双論ヲ不聞道理ニ當テ捌キ玉フニ果
シテ捌之通りナリ諸人カンシケルトカヤ
下女懷妊スル事

京師之商民夫アル女ヲ抱置ケルカ午ヲ付テ
懷妊スル依之夫聞付テ殊之外ニ子ダレ内證
ニテ金銀ヲ以テ詫ルトイヘ共承引セス野司
代ヘ許ヘ出ケル伊賀守殿仰ニ惣テ奉公人ハ
男女トモニ祿ノ夕ノニ身命ヲ賣ルナレハ殺
害セラレテモ主人之心次第相斗^計フコトナル
ソ况ヤ目ヲ懸ケテ懷妊スルコトハ無是非コ
トナリ大切ノ女房ナラハ向後奉公ニ出スヘ
カラス尔本幸李明ク候テ夫之手前ヘ暇ヲ遣
シ平産サセハ今主人ヨリ養育扶助スヘシ産

レ子ハ主人ノ子ナレハ父ヨリ初後迄苦勞ニ
致スヘシトノ仰ナリ是ヨリ以後ハ下女ニ目
ヲ懸ケルコト氣遣ヒナシト京童共大悦シケ
ルトナン

義絶之第二兄ノ家財不殘被下之妻

京洛之商民有徳ニテ手代アマ夕持トイヘ共
妻モナク子モナク然ル處ニ頓死シケル依之
手代トモ有之トイヘトモ主人身近キ一類一
人モナケレハ誰ヲ家督ニ立ヘキヤウモナク
町之年寄十人與トモ立合テ右之通りヲ板倉

殿へ訴へ勿論金銀財寶家屋敷迄書記シ差上

ケル然レハ右之商民カ第一人江戸ニ在テ商
賣シケル此弟ハ廿年來不和ユエニ義絶シテ
音信不通之身ナレトモ町之年寄十人與ヨリ
一封之書ヲ送リテ別ニ親類ナケレハ上洛ア
ツテ兄之家督ヲ相續シ玉ヘカシト申達ル處
ニ舎弟カ返書ニイツモノ御心中過分至極ニ
存候へ共我等事ハ御存知之通ニ兄弟不和故
ニ廿年來義絶之身トナリ他人ヨリモオトリ
候争カ兄之家督ヲ相續スル所存アランヤ金

銀財寶家屋敷迄毛頭望ナキ由ナリ右之巨細
ヲ周防守殿へ申上ル板倉殿聞玉ヒ仰ニハ兄
悪事有之ハ弟他因在テ義絶シタレハトテ安
穩ニオクヘキヤ是善悪共ニ子弟ニカ、ルナ
ラヒナレハ右之弟ニ家督不殘取り候得ト江
戸へ被仰越ケル是善悪トモニ同胞ニ及ホス
ト言ルコトナリトナン

犬ヲ殺密通露頭之事

洛大徳寺之近邊ニ有徳ナル農民アリケルカ
隣家之秘藏シケル犬ヲ有徳ナル農民之許ニ

テ小々擲キケルカ其夜中ニ如何カシタリケ
ン血ヲ吐テ主人ノモトニテ死ケル此犬主甚
夕惜ミケル處ニ彼隣家ナル農民之女房我夫
之打擲致サレケル故ニ此犬死ツラント語り
ケルホトニ悪事千里ヲ走ルナライニテ犬主
聞付テ偕ハ隣之有徳人カ野為ナルトテ以之
外ニ立腹シ使ヲ以テ我等秘藏之犬ヲ其方討
殺シ玉フ由慥ニ聞届侍ルナリ如何ナル遺恨
故ニヤト申遣シケル有徳人返答ニハ存寄サ
ル御口上驚入タル事ニ候責殿之犬毎日拙者

肝へ参り候へ共終ニ打擲不致何故カヤウニ
承候ヤト申ケレハ重テ申遣シケルハ御内ナ
ル人之御ハナシヲ慥ニ承テ候へハ御アラカ
へ候トテモ陳シサセ申マシト肝司代へ許へ
ケル板倉殿聞届玉へ有徳人エ尋サセ玉フ処
ニ掌ニテ小シ打ケルニ声モ立サルナリ畜生
ハ疼痛アレハ必声ヲ発スルモノナリト仰セ
コト有ケレハ仰ノ如ク隣家事ニ侍レハ畜生
ユへ食事之時分イツモ如斯仕候へ共終ニ痛
タルコトモ無御坐候此度死タルコトハ毒ナ

トニ當テラレ候ヤラント申ケル依之彼有徳
人カ妻ヲ召寄玉フ處ニ夫之シタ、カニ打擲
シケルノ由事ニヨソへテ夫ヲ讒シケル周防
守殿聞届玉ヒ妻ノ身トシテ正シキ夫ヲ嫉妬
スルハ何様子細有ント思召シ間者ヲ入テ巨
細ヲ聞玉フ處ニ密通之夫アツテ彼モノニ殺
サセケルトナン後日ニ顯レ間男妻女共ニ罪
科ニ行ハレケル女ハ色ノ道ニハ死ヲ忘ル、
トハ誠ナル哉

間男忽々穿鑿露頭之事

洛外嵯峨之道筋ニ六十斗リナル山伏アリ妻
ハイマ夕四十二不足娘之七才ナル子アリ此
山伏勸進ノ夕ノニイツモ丹波國へ五七日之
滞留ニ毎月往來シケルカ一ヶ月過テモ不見
近所之モノ何カ夕へ往キケルヤト不審シケ
レハ彼山伏ノ妻答ケルハ丹波ノ方へ旦那廻
リトテ毎月初メツカタ立歸リケルカ先ニテ
煩レケルニヤイマ夕不歸然リトテ往先ノ知
サレハイツ夕ヲ往家ト尋へキヤウモナシト
ソ申ケル忝程ニ所之モノ共不審ニシナカラ

戸
秘
書

一兩月ヲ經ケルカ果シテ歸ラサルニヨリ所
之モノ共打捨置カタ夕密ニ所司代へ訴ケル
周防守殿聞召レ彼七才ノ娘ヲ呼寄セ食事馳
走アツテ一両日ナツケ置打解タル躰ヲ御覽
アツテ彼山伏所へ常々昼夜出入シ寐トマリ
ナトスルトモノヲ尋玉へハ小人偽リナキ習
ヒナレハ間男ヲソ告タリケル其時彼山伏ノ
妻ヲ召捕テ拷問シケレハ白狀シテ曰密通ノ
男寐首ヲカキ後ノ山ヨセニ深ク埋メケル故
ニ知ル人ナシトソ申ケル依之間男ト妻ヲ洛

戸
秘
書

中ヲ引渡シ碓ニソ懸ケラレケル當意即妙之
穿鑿故ニ忽テ顕レケルトナン

妻女公事捌之事

京洛之有徳人之娘アリケルヲ一門之中へ縁
組シケルカ娘之父ハ病死シテケリ母愛着ノ
餘リニ兼約ヲ違變セント欲スルトイヘトモ
此夫合点セス依之取司代へ愁訴ニ出ケル此
娘ハ十五才約速夫ハ三十五才ナリ雙論シケ
ルトイへ共媒妁之アルユエニ變スルコトナ
ラサルニヨリ母之申ケルハ私娘ハ幼年ナリ

門
秘
習

約束ノ夫ハ年ユキニテ何トモ迷惑ナリセメ
テ娘ノ年ツレ合ノ男半分迄ノ年數ニテモ有
之似合タル共申スヘシ三十五才ト十五才ト
ハ大ナル違ヒニテ娘モ嫌ラヒ候条何トソ違
變被仰付被下候様ニト直訴シケル其トキ伊
賀守殿仰セニ若娘ツレ合之半分年ナラハ異
義申マシキヤト宣ヒケレハ母畏テ申ケルハ
往古ヨリ男半分年之女房ハ後々ハ似合候ト
世話ニモ承リ候ト申ケレハ然ラハ其方愁訴
モ道理アルノ条ツレ合ノ夫半分年ナラハ嫁

門
秘
習

内務省
娘之異儀申マシキ旨町年寄十人與一門共立
合手形爲致ヨト仰ナリ母悦テ即坐ニ證文ヲ
調ヘ差上ケル板倉殿重少可被仰出旨ニテ雙
方退去ス其後五年ヲ經テ右之者トモ雙方召
シ出サレ仰ニハ先年ノ手形見ヨ當年ハ夫四
十才娘廿才ナレハ母娘願之通リナレハ早々
祝言ヲ調ヘヨ我等モ二度ノ媒妁ナレハ樽肴
ヲ送り候ヘトテ笑ハセ玉ヒケル尤ノ御捌ト
カンシケルトカヤ

聖人公事捌之事

京洛外之貧民三条小橋旅籠屋ノ前ニテ金子
三分拾ヒケルカ我カ身イカニ貧ナレハトテ
他人ノ愁ヲ以テ身ヲ樂シムハ道ニアラスト
テ本主ヘ返シ與ヘンニハシカシト思ヒケレ
ハ町司代エ持參シテ件之旨ヲ訴ヘケル依之
伊賀守殿ヨリ辻々ニ件之旨ヲ書記シ落シタ
ルモノ奉行町エ尋來ルヘシトナリ即日落シ
タル町人奉行町エキタリケル板倉殿仰ニ其
方カ落シタル金子三分拾ヒタルモノ落シ主
ヘ返シタキ由ニテ指置タルノ受取候テ歸リ

候へトソ宣ヒケル其トキ落シタル町人謹テ
申ケルハ御錠畏リ候雖然我等ハ當分アマリ
不弁ニモ無御坐候条拾ヒタルモノニ被遣被
下候へ彼者ニ預リタル金子ト奉存聊カ恪惜
仕サルノ旨ニテ承引セス依之拾ヒタル者ヲ
召シテ件ノ旨ヲ仰アルトイヘトモ元ヨリ貞
心ニテ一錢ニテモ承引マシキトテ互ニ譲リ
合事ヲ不果板倉トノ躰方ノ心底ヲ御感アツ
テ我等數年京洛ノ所司代ヲ被仰付普ク許ヲ
聞トイヘトモ終ニ如斯ノ訴訟ヲ不聞末代ニ

内務省

モ終リナラント思へハ我等モ此許へノ人數
ニ加ルへシ是ニテ双方納得スへシトテ金子
三分ヲソヘテ双方へ三分ツ、下サレ町之年
寄十人與正被仰渡ケルハ此モノ共今ノ世ノ
聖賢ト言ツへシ玆ラシキモノ共ナレハ我等
モ人數ニ加ハリ睦シキ中トナルノ条向後此
モノ共身ノ上ニ何事ニヨラス替ル事アラハ
申出へシ頼ミ入ルノヨシ懇ノ仰ヲ蒙リ各退
出ス誠希代ノ許へト諸人カシケルソノ比
京童トモ傳聞テ往昔田畝ヲ譲リ合タル聖賢

内務省

二等シキトテ聖人公事トソ号ケルトカヤ

此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ... 此は... 聖人公事トソ号ケルトカヤ...

板倉政要卷第八

公事掎

- 一 山本恭順父子被行死罪事
- 一 宿賃出入之事
- 一 關落者御捌之事
- 一 分散公事捌之事
- 一 道具公事之事
- 一 本妻ト妾之事
- 一 入駕出入之事
- 一 妻暇出入之事

内務省

一 買掛出入之事

一 奉公人之事

一 社人社僧出入之事

一 兄^殺ヲ役者御宥免之事

一 麻首搔之事

一 賣買出入之事

山本恭順父子被行死罪事
京洛ニ山本恭順トテ其頃名ヲ得タル儒學者
アリ此者父子ハ山本友我ト云ヘル畫工也恭
順事其頃京都ニオイト儒学博識ノ名ヲ發シ
タルニヨリ有徳人ノ娘ヲ嫁娶セント取組ケ
ル處ニ大形首尾^濟寄ケルニ依テ普請等ヲ思
ヒ立ケルトイヘトモ父子共ニ^貧貪者ナレハ如
何セント睦シキニ語リケレハ彼ノ朋友聞テ
申ケルハ其ハ寂安キコトツソ侍レ有徳ノコト

板倉政要卷第八

山本恭順父子被行死罪事

京洛ニ山本恭順トテ其頃名ヲ得タル儒學者
アリ此者父子ハ山本友我ト云ヘル畫工也恭
順事其頃京都ニオイト儒学博識ノ名ヲ發シ
タルニヨリ有徳人ノ娘ヲ嫁娶セント取組ケ
ル處ニ大形首尾^濟寄ケルニ依テ普請等ヲ思
ヒ立ケルトイヘトモ父子共ニ^貧貪者ナレハ如
何セント睦シキニ語リケレハ彼ノ朋友聞テ
申ケルハ其ハ寂安キコトツソ侍レ有徳ノコト

内務省

ナレハ土産ノ金子四百兩持参スヘキトノ約
束ナレハ違変スルコトアルマシ先々長崎ノ
糸荷ヲ似テ質屋ヘ遣シ金銀ヲカリ普請以下
之入用ヲ弁シ玉ヘ祝言整へ候ハ、早速質屋
ヨリ受出シ申スヘシ此計略ニシクハナシト
語リケレハ恭順父子聞テ貴殿ノ仰ノ如ク祝
言整候以後ハ持参金數多有之コトナレハ余
ノ偽リトハ違ヒタルコトナレ共糸荷ヲコシ
ラヘ候テモ質屋ノ質物ニ取ヘキコトモ不知
如何ト云ケレハ彼モノ申ケルハ其儀ハ我等

ニ任セ玉ヘ慥ニ質屋ニ入テ當用ノ金子ハカ
リ出シ申ヘシト語リケレハ然ラハ免モ角モ
貴殿ヲ頼入之由申ケル本トテ色糸ヲ買調ヘ
長崎ノ糸荷ヲ似テ荷物ヲコシラヘ彼者才覺
ニテ質物ニ入テ當用之金子ヲ探息シ普請以
下ノ入用スル處ニ右ノ娘之父タル者ハ有徳
人方ヘ水ヲサシケレハ縁邊ノ儀ヲ違変シケ
ル依之彼之質屋モ約束之日限過キ候ヘハ儒
學者ニ似合サル仕方ナリト不審シケル處ニ
質物ハ似セ荷物之由告知ラスルモノアルニ

ヨリ驚キ右之荷物之内一丸ヒラキ見ケレハ
似荷物ニ極リケルニヨツテ野司代板倉内膳
殿へ訴ケル内膳殿聞召レ恭順友我父子召寄
ラレ御尋之處ニ右件之通真真^直ニ申上ル内膳
殿御思案有テ仰セニ八九人カラハサモアラ
ンカ誠ニ名ヲ得タル儒學者如此之振舞ハ言
語同断ナリ向來之懲ノニトテ恭順父子磔ニ
ソ被行ケル寛文十年中ノコトナリ其コト見
聞之人論語讀之論語誦ストノ世話ナレ共カ
ル例ハ古今希ナルコトト云合ヘリ右之似

セ荷物ヲコシテへ質物ニ入ケル者モ其罪不
輕^テ恣ハ重シ本人ニアラストイヘトモ是又其
罪科非輕トテ斬罪ニソ被行ケル

宿賃出入之事

京師遊行道場之邊^邊二年久シク住宅ノ者宿賃
三両有之ニ付テ家主受人工断リ宿替サセケ
ル依之右宿賃三両受人受合手形ニテ大徳寺
邊へ借宅シケルカ此處へ移リ候トキ余人ヲ
頼ミ請人ニ立ケル五三年ヲ送ル處ニ爰ニ才
イテ商賣物之代銀引負有之付テ問屋方ヨリ

帳面ヲ以家主へ断リケレ共不博明ニ付テ取
司代へ此儀及許訟ケル約束ノ日限遙ニ延引
シ問屋カ申處尤ナル故ニ取司代ヨリ家主方
へ急度引負相濟スへキ由仰渡サレケル此代
銀ハ買懸リタルニ依而家主立替儲右之店受
へ届請人ヨリ立替ル初メ道場之邊ニテ借宅
シケル家主ヨリ三兩之店賃モ唯今之家主へ
カ、^ルトイへトモ此ハ初メ之請人立替ル其
後當受人工カ、ル是又當受人ヨリ立替^博明
ケル此様之出入ハイツレモ如斯ノ捌ナレハ

内務省

不記之

欠落者出入之変

京都東山之智積院之中間奉公人年季ノ内寺
内ニ他國ヨリ住山僧之寮へ忍込テ金子拾兩
ホトノ雜物ヲ盜取テ欠落シケル忝ホトニ京
洛ノ受人工其沙汰候處ニ受人難^道尋之トイ
へトモ何國トモナク欠落シケレハ何方ニ居
候ヤラン住取更ニ不知半年^計斗リ過テ尋アル
キケレハ南部^都ノ邊郡山ノ家中ニ奉公シテ居
タリケルヲ尋付テ主人ニ預ケ置京都へ歸リ

内務省

件之肯取司代へ訴へケレハ則雑色ヲ遣ハサ
レ搦捕之來ル受人ハ盗人ヲ尋出シ即其人ヲ
渡ストイヘトモ彼盗人貯へ一錢モナケレハ
一門眷属ヲ尋聞テ在所之兄弟共ニ右之取逃
等ノ金子ヲ立替へ候へト受人相理ルトイへ
トモ下受ニ立タル者モナク只多幸之近付工
へニ夕ノモシツクニテ受ニ立智積院へ奉公
ニ出シケレハ兄弟モ承引セサルニヨリ取司
代へ愁訴シケル内膳殿被聞召其後郡山へ奉
公ニ出ケルトキノ受人ヲ召寄ラレ仰セニハ

内
務
省

此罪人ヲ如何ナル由緒ニヨツテ南^部之者受
ニ立テ郡山ノ家中へ出シケルソ淳ニ申スへ
シト有ケレハ南^部ノ受人畏申上ケルハ私儀
元來同在所ノ者ナルカ南^部ニ縁有テ数年居
住仕ルニ依而彼者兄弟ヨリ頼之由書狀差越
ユへニ無是非受人ニ罷立ノ由申上ルサルホ
トニ西人之兄弟ヲ召テ内膳殿仰セニハ其方
共ハ弟之雜物金子拾兩ホト盗取欠落シケル
ヲ不知シテ南^部へ頼ニ遣ハシケルカト御尋
之處西人之兄弟申ケルハ盗三不致前方智積

内
務
省

院ヲハ首尾克暇取タルノ条南部部一頼三遣シ
吳候様申ニ付テ兄弟之儀ニ御坐候へハ誠ト
ソニシ書狀ヲ相添へ申候其時之日付ヲ御考
へ御覽被遊候様ニト申上ルニ付テ右之狀ヲ
披見ノ處ニ寺内ノ雜物ヲ盜取智積院ヲ欠落
シケル日ヨリ五日前之日付ナリ其時内膳殿
仰セニハ寺内ノ雜物金子拾兩ホト盜取欠落
シタル旨請人方ヨリ其届シケルニ何トテ不
存由申候ヤト宣ヒケレハ正シキ兄弟之儀ニ
御坐候ユへ悪人ニテ御坐候へトモ死罪ニ忽

内
子
省

行ハレンコト不便サニ不存ト受人方へ返答
仕ルヨシ申上ル板倉殿御下知ニハ汝等
公儀ヨリ御尋ヲ不存ト偽ルニ才イテハ忽死
罪ニ申付へシ是ハ受人工之返答ナレハ死罪
ヲ御宥免ナサルノ間右之雜物之代ニ金子
拾兩速ニ返答スへシ是ハ悪人ヲ肝煎ナカラ
不存ト申掠タル過代ナリサテ盗人ヲハ忽死
罪ニ行ナフヘキ儀ナルトイへトモ沙門ノモ
ノヲ盜タル儀ナレハ智積院へ下サルナリ
沙門之心次第ニ如何様ニモ計斗ハルへシトソ

内
務
省

仰渡サル是ハ僧侶ヨリ一命ヲ乞玉フ故トナ
リサテ又仰ヒニハ向後ノ儀ハ兄弟子ハ不及
申縦父タリト云共惡逆ノモノヲハ速ニ奉行
野へ許へ來ルへシ若シ如此掠メハ此捌トハ
違ヒ死罪ニ行フへシトノ觸ラレケル誠ニ法
ハ重ク人ハ輕シト感シケル

分散公事

洛外之商民京洛之酒屋ヨリ之買懸リ金子百
兩余其外方々ヨリ之買懸リ百兩有之ニ付テ
取司代へ訴訟ニ出ケル依之商民只今悉ク相

内務省

濟スへキ子簡ナシ分散ニ被仰付被下候様ニ
卜願候ニ付而雙方合点ニテ分散ニ極リケル
依之住宅之家屋舗賣買百兩之家ナルニヨリ
是ヲ分散ニ被仰付被下候へ我々賣懸モ十年
來之滞リニテ御坐候肯願ヒケルトイへトモ
先年家質ニテ照ヨリ金子五拾兩借用スルニ
ヨリ此金子ノ方ニ相渡シ殘ル金子先家財等
可致分散肯申ニ付テ町年寄與之者トモ被召
寄御穿鑿之處家主申上ル通りニ五年以前右
之者共立合家屋敷質ニ入金子五拾兩借用候

内務省

慶無紛ニヨリ仰セニ賣掛ノ金子十年來之滯
リトイヘトモ家質ハ五年ニテ遠近之差別ハ
尤ナリトイヘトモ正シキ證文ニテ借用之金
子ナルニヨリ右之通りニ致シ残ル慶之金子
分散ニ可仕旨ナリ依之家屋敷質之方へ相渡
シ残ル金子廿兩有之ト財具賣拂候代金五兩
有之ト合而金子ニ拾五兩ニテ致分散無出入
博明^増夕リ金二百兩余之買懸リニ二拾五兩ヲ
分散シケルハ僅宛ナリトイヘトモ百貫ニ編
笠一ツ之世話ニ同シ分散ハ双方合点之上ナ

ル故ニ何ホトニテモ如斯之公事捌ナリ合点
不致ハ幾年モ待テ取ル也トソ
道具出入公事

京師仕生之邊ニ近江國淺井家之浪人年久敷
住宅シケルカ次第ニ勝手不如意ニ付テ年々
月々ニ武道具ヲ代カヘ渴余ヲ継キケルカ或
トキ重代之一腰ヲ拂ハン由語リケレハ数年
近付之砥屋申ケルハ幸ニ西國大名何某殿之
屋敷ヨリ能道具御求メ有ラントテ家來之歷
々上京ナリ爲見候テ拂ヒ進スヘキヨシヲ申

二付テ然ラハトテ其砥屋ニ預ケ遣ス處ニ大
形博明ヘキ由ニテ一兩月ヲ經ケル其節九州
大名之家臣粟山大膳トイフ人病氣保養之夕
メ在京セラレケルニ見セケレハ此作之刀望之
由ニテ金子百兩ニ被求然ル處ニ刀主四五ケ
月ヲ經ケルニ依テ最早博明サル之間拂間敷
肯砥屋カタヘ申遣處ニ彼者返答シケルハ公
頃御使之節御刀返シ遣シヨシ申ニ付テ浪人
驚キ右之使ヲ紀明シケル處ニ偽リナリ此儀
水カケ論ニ成リテ下ニテ不博明ニ付テ取司代

ヘ訴訟シケル依之雙方被召出段々御穿鑿之
處ニ右之如ク水カケ論ニテ更ニ證據不分明
時ニ度々刀取ニ遣ス當日返事之趣逐一御尋
之處ニ彼浪人少シモ違タル申分ナク兼テ此
者我等道具ヲモ頼ニ申ニ付此度モ預リ手形
モ取不申由委細ニ申上ル双方御聞届アルニ
此浪人ハ淺井内ニテ磯野氏ニテ由緒アル者
タルユヘニ免角彼砥屋ヲ不審ニ思召シ所之
年寄十人與家主ヘ被仰渡ケルハ此刀砥屋手
前ヲ詮義スヘシ若偽ニ才イテハ重テハ拷問

アルヘシ勿論町年寄與之者家主共ニ不詮儀
ニ於テハ一稜曲事ニ行ハルヘキ肯急ト被仰
付ケル依之イツレモ驚キ彼砥屋妻子ヲ引分
ケ置テ稠ク穿鑿シケル處ニ右之仁工賣候テ
代金百両受取タルヨシ白狀申ニ付テ金子ヲ
御尋之處ニ六拾両余遣込殘金三拾五両有之
由申ニ付テ其殘金ハ家主方ヨリ急度濟シ候
ヘト被仰付百日之籠舎ナリ此砥屋門跡方ニ
縁有テ違テ愁訴ニヨリ死罪ヲ宥^免有テ洛中
ヲ追放シ欠野被仰付ケル證據ナキ水カケ論

ナレ共智惠之鏡ニテ忽ケ頭レケルト感シケ
ル

本妻与妾之事

上京ニ有徳ナル商民アルケルカ本妻ニ男子
ノ五才ナルヲ持ケル又妾ニ九才ニナル男子
ヲ持ケル此父俄ニ煩付テ程ナク死去スル忝
ホトニ遺言遺書モ無之ニヨリ本妻之一類共
寄合テ五才之男子ニ家督ヲ継セント云トモ
妾之持タル子九才ニテ惣領ナレハ是又庶子
ニスルコトモ成サル故ニテ嫡庶斗ヒカタク

ノ町年寄十人與一門共立合テ町司代へ訴へ
ケル周防守殿被聞召仰セニハ其妾腹之男九
才ナルハ亡父存生之内ハ別家ニ才イテ生立
ケルカ又本家へ呼寄ソタテケルカト御尋之
處ニ町之年寄與之者申上ケルハ本家エ呼寄
生立申候平生モ本妻ノ子ニ替ルコトナク惣
領之様ニソタテ申之由委細ヲ申述ル板倉殿
被聞召仰セニハ亡父之心入モ惣領之コトク
仕立タルコトナレハ元ヨリ腹之違ヒタル斗
リナリ家督ハ是ニ然ルヘシサレ共母ハ妾之

町
司
代
書

コトナレハ後家ノ心ニ任スヘシ免角兄弟共
ニ成立様ニ仕ルカ本意ナリ本妻ノ子モ母方
歷々之商人ナレハ其五才之男子兄之家督ニ
掛リ居タル斗リニテハ首尾然ルヘカラス只
今家督相續之節金銀財寶以下迄モ仕分成人
候テモ兄弟兩母睦シキヤウニ年寄與中一門
共相斗フヘシ此方ヨリ分際ハ難成之糸各罷
歸リ相談セシメ重テ申出ヘキ旨ナリ年寄與
之者一類トモ畏テ退去シ各寄合相談一交シ
テ重テ申上ルハ金子一万兩ハ惣領八千兩ハ

町
司
代
書

第トナリ勿論家財雜具ホトモ相應ニ配分之
申上ル處ニ板倉殿仰セニハ一段可然思召
候間兩子各十五才ニ成ル迄ハ一門共右金子
預リ置十五才ニナルトキ渡スヘシトナリ又
一野ニテ生立ルコトハ無用ナレハ別家ニ引
分置テ母共付添テ相斗フヘシ若シ不届有之
時ハ兄弟他人之様成行モノナレハ一門共此
以後ハ惣領ヲモ同胞ノ甥ト思ヒ憐愍スヘシ
其子細ハ兄ニ悪事アレハ弟ニ懸ルコトナレ
ハ善惡共ニ真實之思ヒヲ成スヘシトナリ難

有御意トテ感悦スルトナリ

入駕公事

京洛ニ兼房ト云紺屋アリケルカ先妻ニ娘一
人有テ死ス因茲後妻ニ男子一人持タルヲ呼
ヒ迎ヘケル此男子ハ十二才ナリ娘ハ七才夕
ルニヨツテ以後者此娘ニ嫁合セント欲シケ
ル處ニ父煩付テ娘十才ノトキ病死スサルホ
ト二十五才ナル養子家督ヲ繼テ家業ヲイト
ナム内ニ彼娘十五才ニナルニヨリ一門共立
合嫁合シケルカ二三年ヲ経テ亡父カ譲リ與

へタル金銀ヲ失ヒ剩へ家業ヲ他人工譲リ娘
ヲモ離別シテ右之家業相續ノ者ニ預ケ置申
ケルハ此モノ暇ヲ出ス上ハ縁付成共又ハ奉
公致ス共心次第ニ仕付候へトノ約束ニテ他
所へ引越シ別妻ヲ置ケル後之家業相續之者
ハ妻子アルモノ工へニ如斯ナリ此由彼娘之
一門共聞付テ所司代工愁訴ニ出ケル依之雙
方召出サレ様子御尋之處彼養子智申上ルハ
私儀養父之家督相續イタシ家業ヲイトナ三
候トイへトモ年々不仕合工へ無是非如斯之

内
秘
書

由申上ル所司代聞召レ仰セニハ元來娘之家
ナレ共其身入贅ニ成テ不仕合ナルト申ハ尤
ナレ共然ラハ何トテ身上之継キ宜シキ時節
離別シテ退サルヤ亡父カ譲リ與へタル金銀
ヲ失ヒ所帶ヲ持破諸道具迄沽却シテ離別ス
ルコトヲ道ニアラサル仕方ナレハ唯今ノ妻
ヲ離別致シ此娘ヲ一生之内ハ妻トスへシ若
此事難相成ハ衣類諸道具代金百兩餘ナレハ
此金子ヲ出スへシ金銀ハ不仕合之分ニ引候
テ遣ハスへシ右之金子ニテ支度致サセ急キ

司
務
書

服へ縁ニ付テ遣スヘシ此旨相背ニ才イテハ
曲事ニ行ハルヘキ旨町年寄組之者先一類共
ニ稠夕仰渡サレ證文ヲ書セラル依之カノ養
子之一門共右之金子ヲ出シ衣類諸道具ヲ求
メ能キ商人之元へ再嫁シケル誠ニ有カタキ
御政道ト皆人カンシケル
妻暇出入之事

京洛之商民之娘ヲ金百兩付テ嗟峨ノ有徳ナ
ル百姓ノ元へ嫁シケル此娘夫ヲ嫌ヒテ暇之
コトヲ種々ニ乞トイヘトモ不出サルホトニ

後ニハ諸家御門跡カタ迄頼候テ暇ヲ乞トイ
ヘトモ今少シ待玉へ暇ヲ出スヘシト斗リニ
テ一兩年ヲ經ケル故ニ彼娘之父取司代へ怨
訴ニ出ケル野司代聞召レ嗟峨之有徳百姓ヲ
召寄ラレ一兩年以來諸家御門跡方迄御扱イ
候ニ何トテ暇ヲ遣シ不申ヤ子細有テノコト
カマ夕無理ニ暇ヲ乞ニ依テ立腹一筋ニテ難
渋スルカト御尋之處ニ其儀ニテ御坐候誰人
ノ仰ニモカマヒ不申暇遣シ度奉存候ヘトモ
預リ置タル金子借金之方へ遣シ其才覺不相

成候ユヘ逢々仕候全ク難渋ノ心入無之ヨシ
ヲ申上ル此由板倉殿聞召レ金子夕ニ博明ナ
ハ暇ノコト別条ナキヤト仰ケレハ金子故ニ
難渋仕候ヘハ金子サヘ博明^増キ候ヘハ片時モ
早ク暇ヲ遣シ度由申ケル然ラハ重テ呼出ス
ヘシトテ退去スサテ妻之父ヲ召寄ラレ仰セ
ニハ娘之暇ヲ取遣スヘシ然レ共夫ヲ見侮リ
候故礼金百両入ナリソレサヘ合点ニオイテ
ハ我等扱ドラスヘキトノ儀ナリ彼父申ケル
ハ娘只今^今夫之方ヘ遣シ候ハ、自害ニ及ヘ

キヨシ申ニ付テ命ニハ替カタク御坐候条如
何様ニモ御意次第ニ可仕旨申上ル然ラハ百
両之付金無異儀之一札ヲ認ヨ去狀ヲ取遣ス
ヘシトナリ父畏テ百両之付金返弁ニ不及ヨ
シ一札ヲ調ヘケルニ付ソレヲ以去狀ヲ書セ
ラレ遣ハサレケル尤ノ御捌ナリ

買懸出入之事

京洛之商民呉服屋方ヨリ晒布十疋取次候テ
屋敷方ヘ賣候處代金近日出シ候由ニテ數日
ヲ経ケルトイヘトモ爲替金未參トテ不相濟

司務當

處ニ内縁ヲ以事ノ実否ヲ聞合ケレハ其近邊
之質屋へ右之晒布十疋受人ヲ頼ミ質物ニ入
ケルヨシヲ聞傳へ弥詮議ナリケルニ果シテ
呉服屋ヨリ取次処之晒布ナリ依之所司代へ
右之通訴へケル板倉殿双方召出サレ御穿鑿ノ
處彼取次之申ケルハ私儀屋敷ヨリ受取金子
十両有之トイへトモ延引ニ付テ當用ヲ弁又
へキタノ質物ニ入ル處右之金子不博明故ニ
呉服屋手前へ策計モレ聞へ御前へ召出サレ
ハト無是非仕合之由ナリ此ヨシ所司代聞

召レ仰セハ此晒布屋舗へ入口在之由偽リ
質物ニ入ルコト盗人同前之科ナリトテ彼取
次之者闕所被仰付其家財ヲ彼呉服屋ニ下サ
レ借彼カタリヲハ京洛ヲ追放被仰付ケル彼
質物ハ受人在之ニ付テ無異儀受人ハ右之首
不存ヨシ申分タツナリ

奉公人出入之事

洛之大名衆町屋舗之用人所ニ中間ヲ召置ケ
ル處ニ此中間年久シク居ケルニ依之萬買方
ヲ致サセケルニ金子五兩之遣ヒ込有之二付

テ欠落ス依之受人方へ届ケルハ召仕金子五
両之引負有之處ニ昨日欠落シケル之条尋出
シ急度渡候様ニト申ニツキ受人驚キニ三日
彼方此方ト尋ケル處ニ山科之邊ニテ彼欠落
者ニ行逢ヒ其方ヲ打角ト尋ケルニヨキ野ニ
テ尋逢フモノ哉其方主人ヨリニ三日以前我
等カタへ申來ル趣ハ僅ニ遣ヒ込在之ニ付テ
欠落シケル之間尋出シ戻スヘシ如前々召仕
ルヘシ遣ヒ込之處之金銀モ自然ニ弁ヘシト
ノ儀ナリ僅ノ事ヲ苦勞ニセス共歸參シテ首

尾克暇ヲ取ヘシト云ケレハ欠落者聞テ仰尤
之事ナリ忝ハ歸參セントテ打連主人之處へ
行ケル處ニ打節主人内ニ居合ケル故ニ對面
シテ受人云様ハ此間我等方ヨリ召抱ラレ候
者欠落仕ルニ付尋出シ可參肯仰付ラレ御尤
ニ存シ方々ト穿鑿仕差上候間此上ハ如何ヤ
ウトモ御心次第ニ可被遊トテ受人ハ宿取ニ
歸リケル然ル處又彼者欠落シケルニ依テ主
人方ヨリ申越候ハ召仕之中間又欠落シケル
間此上ハ早々右之金子五両立替候ヘト申來

ル受人返答ニハ勿論受人ニテ手形在之トイ
ハトモ前方欠落之節尋出シ候ヤウニ被仰付
候故早速尋出シ相渡シ申候其節申上候ヤウ
ニ一旦其元様へ欠落者尋出シ相渡候上ハ如
何様ニモ御心次第ニ可被仰付肯申違候様ニ
其元極御油断ニテ御詮議モ不被仰付欠落仕
候ハ最早此方ハ不存ヨシ申ニ付テ手形有
之条奉公人ハ幾度モ受人ニ懸ル法ナル申分
トテ屋舗用人方ヨリ野司代へ訴へケル依之
雙方召出サレ御詮議之處受人申分右之通り

ナルニ才^テ野司代之御セニハ勿論受人奉
公之内ハ何事ニヨラス沙汰スル習ナレ共此
者一旦欠落シケルニ付テ尋出シ相渡シ如何
ヤウトモ主人之心次第ニ斗ハルへキト申違
上ハ受人ニ其料ナシ主人之油断ナリ何トテ
其節如何様トモ沙汰不仕哉成敗候トテモ無
是非コトナリ肯免ヲ加へ又召仕候コト越度
ナリ此上ハ受人ニ構ヒ無之由被仰渡此以後
ハ主人ヨリ見出シ次第如何様ニモ心次第ニ
可申付トナリ

社人社僧出入之事

丹州矢神大明神之太宮司ト同社僧ト權威ヲ
諍ヒケル其子細ハ此大明神之社領御寄附之
御朱印太宮司一人ニ當ル然レ共社僧之儀ハ
代々涖流之沙汰ニテ梶井御門跡ヨリ入院シ
テ別當之様ニ成行車之西輪ニ等シキ處ニ太
宮司申様ハ此宮之私領御朱印拙者一人ニ當
ル上ハ我等宮中之儀支配ヲセシニ誰カ否ト
云ハンヤ若違背之輩アラハ京都ニオイト沙
汰ニ及ボシト觸ニケル社僧聞テ返答シケル

コトヲヤ申スヘキ自今以後ハ如先々車之西
輪ノ如ク萬事ニ付テ睦シキ沙汰アルヘシ是
道ナリ只今迄互ニ權威ヲ諍ヒ不和トナルコ
トハ私ノ非ヨリ起ルコトナレハ我等アツカ
ヒ申スヘシトテ盃ヲ出サレ和睦ヲナサシメ
水魚之思ヒヲ成シ玉ヘトソ誠ニ難有御扱ヒ
トテカンシケル

兄ヲ殺者蒙御宥免

大徳寺近邊之商民男子兩人持ケルカ兄ヲハ
出家サセ近所之淨土宗之弟子ニ致シケル處

ニ此坊主彼寺へ出入スル洗濯屋ノ娘ト密通
スル由專テ風聞スルヲ第聞付テ異見シケル
ハ御寺へ出入スルセンタク屋ノ娘ト御坊ト
密通アル由諸人風説有之ヲ付我等ニ異見仕
候へト申人アリ自今以後ハ彼センタク屋へ
出入無用ニ成サルへシ我兄弟ノ身ナレハ聞
着^著シテ侍ルト云ケレハ兄坊主聞テ言語道断
之事哉何者左様ノ事ヲ申候哉對交セント云
テ立腹ス第申ケルハ可然コトコソ他人ト對
交モ致ス^不シ此ヤウノコト對交アラハ弥諸

ハ此方寺院之儀ハ代々法流之支配ニテ御門
主之御下知ヲ奉テ入院之事ナレハ何ノ今新
規之恣ニ隨ハンヤトテ不用故ニ雙論ニ及ヒ
不得止事シテ所司代工訴へケル所司代双方
ヲ招テ御詮議之上仰セニハ御朱印社勢一人
ニ當ル上ハ宮中之儀何ニヨラス支配スへキ
道理ニ似タリ然レトモ故有^元代々法流之支
配ニテ僧侶入院之寺院ナレハ御門跡へ申達
シ其上ニテ御沙汰アルへキ旨ニテ退去ス借
右之段々書付テ以テ御門主へ被仰入處ニ御

門跡聞召則尊氏以來之御教書教書ヲ所司代
工披見ニ入ラル此趣ヲ以沙汰アルヘシトノ
返答ナリ板倉殿御覽之處尊氏以來數代之御
教書殊ニ代々將軍家之所領職ニテ至テ尊
院ナリ信長ト取合之節寺領没収之由尤左様
ナルヘシ依之右之兩人召出サル仰渡サルハ
ハ尊氏以來教通之御教書殊ニ國家安全之御
祈禱所故ニ代々法流之支配顯然タル上ハ今
更大宮司之支配ニ致シ難シ其謂レハ理ヲ破
ル添ハ有トモ法ヲ破之理ハナシト此ヤウノ

和
書

人聞付批判セハ兄弟一類之耻サラシト成ル
一シ只今自今以後彼洗濯屋處へ出入ヲ止メ
玉ヒナハ自然ト悪名モ止ムヘシ不入詮議タ
テ哉ト云ケレハ兄坊主怒テ免角其方耳ニ入
タル者ト對変セント罵ケル弟又申ケルハ夫
ハ俗人之コトナリ出家ト申モノハ双論ハセ
又モノナリ各對変ニ及ヒ只謙致サレハ我
モ堪忍致サレサル時ハ耻辱之上之耻サラシ
ナレハ無実ノ悪名ヲハ自然ト閉口スヘシ免
角出入無用ト制シケレハ彼坊主弥立腹シ偕

了
務
旨

ハ汝カ所為ナラントテ舎第ヲ打擲セシトス
弟モ立腹シテツカニ合ケルカ彼坊主強力ニテ
弟ヲシタ、カニ打擲シケレハ弟怒テ出家沙
家ノ女犯ナ天下一統ノ重糾門放ハ其俛シ
テサシ置ハ一門眷属ノ頼ヨコシトテ刺殺シ
ケル此儀悪事千里ヲ走ルナラハニテ頓テ周
防守殿御耳ニ入ケルニ依テ彼殺害人ヲ召捕
テ穿鑿ノ慶果シテ右之通りナリケレハ兄ヲ
殺シタル罪科道レカタシ其上死人ニ口ナシ
トテ彼者籠舎被仰付ケル依之老父歎欲テ死罪

門放
主
歎

ニモ行ハレハ蟬之両足ヲモカレタルコト久
ナルヘシトテ愁訴シケル弟之身ト生レ正シ
キ兄ヲ殺シタルコト不道バ仕方ナリトイヘ
トモ彼僧悪名之儀ヲ異見イタシ候處ニ彼僧
承引不致依之後難ノコトヲ考ヘ殺害致シ候
是偏ニ公儀ヲ憚テノ所為ナリ我等儀モ極
老ノ身ナレハ異見ヲ致シ候申付候然リト
イヘトモ兄ヲ殺候事無道ノ至リニ付籠舎被
仰付此上ハ私極老ノ身ニテ彼者ニ離候ハ
飢ニ及申候奈私ニ被為對御赦免ヲ蒙リ彼者

寸
務
旨

二育レ候様ニ致シ度旨愁訴ニ出ケレハ板倉
殿聞召シ分ラレ町之年寄與ノ者ヲ招テ被仰
渡ケルハカノ者正シキ兄ヲ殺害スル事無道
ナリトイヘトモ申分ニ且理^ルニ似タリ其
上老父カ愁訴不便ニ思召ニ付テ一命ヲ助ラ
レ町年寄與之者ヘ向後御預ケ被成候間老父
ヘ孝心孝育之儀ハ勿論若シ不義ノ事アラハ
申出スヘシ此御赦免ハ老父カ願ヒニ依テナ
リ此儀ヲ洛中洛外ノ者重科人ヲ宥免ト思ヒ
不義ノコト有之ハ忽テ死罪ニ行テヘシ此儀

觸聞スヘキ旨ニテ御赦免ナリ皆人カシケ
ル^ル寐首搔士之事^ノ父年々ノ百^ノ寐首
京洛之儒者門弟數多在之其内大名屋敷家来
之武士之子供門弟ト成テ彼カ學寮ニ居住ス
ル處十八九才ニ成リケル弟子兩人イツレモ
士之子ナリケル口論致シケルヲ皆々異見ヲ
加ヘテ和睦シケル^カニ三日過テ十八才ニ成ケ
ル者ヲ十九才ノモノ寐首ヲカキテ其夜立退
ケル依之寐首カレタルモノハ父堪忍ナラ

ス板倉殿へ訴訟ニ出ル伊賀守殿聞召レ彼寐
首ヲカキ立退タルモノ、屋敷へ被仰遣ケル
ハ士タル者双方働キ合相手ヲ討留立退ニ於
テハ神妙ナル仕形ナリ寐首ヲカキ候事ハ女
童部ノ盗偷ノナス處ニシテ古今士之汰ニア
ラス尋出シ殺害ニ及ブヘシ若シ不尋出ニ於
テハ一類共迷惑ニ可被仰付ト人仰ナリ依之
寐首カキタルモノ、父早ソク召連レ所司代
へ罷出ル處ニ彼父ニ被仰渡ケルハ士之寐首
カキタル例ナシ成敗ニ行ハルニキト思召ト

伊賀守殿
御
印

イヘトモ父ニ對^對シ切腹被仰付候間難有存ス
ヘシト人仰セナリ依之切腹シケル
買賣物出入之事
四糸通りニ有徳ナル油ノ問屋アリ此者賣子
方々ニ數多アル内ニ嵯峨ノ賣子極月廿五日
之比來入シテ箒用仕切之上ニテ油十五樽買
還リ當日ノ十樽ハ嵯峨へ取越シ残ル五樽ハ
油問屋ニ預ケ置改リ候テ取越シ申サントテ
當坐ノ預リ手形ヲ取テ嵯峨へ歸リケル翌年
二月末ニ成テ右之預ケ置タル五樽ノ油相渡

伊賀守
御
印

サレヘキヨシ召仕ヲ油問屋工云遣シケル預
リ手形失念シテ無異儀渡シケル故ニ嵯峨へ
取越シケル翌年之極月ニ至テ兩年之算用ニ
油問屋處へ行兩年ノ通手形ヲ出シ算用候處
ニ右之問屋預リ手形ヲ出シ五樽ノ算用ニ立
ケルニ依テ問屋モ久シキ事其上百人丁マリ
ノ賣子ナレハ失念シテ不審ニ思ヒ出入帖ヲ
考見ルニ忝々年極月仕切之後油十五樽相渡
ス内五樽預ルト書記シ翌年二月末ニ右之預
リタル五樽渡スト有之上ハ算用ニ立ヘキヤ

ウナシトイヘハ嵯峨ノ賣子申ケルハ忝々年
極月預置候五樽ノ油我等失念ニ云只今追延
引之處ニ漸ク此節貴殿ノ預リ手形見出シ思
ヒ出シタリサルホトニ此手形其元へ返シ不
申ナリ争テカ五樽受取ニ於テハコノ手形此
方ニ留置申サンヤトテ互ニ双論水カケ論ニ
成テ終ニハ所司代へ訴ヘケル周防守殿双方
召出サレ御詮議之上双方之帖面御覽アルニ
右之通りナレハ不審ニ被思召彼賣子ノ手前
ノ賣帖ヲ取寄セ玉ヒ密ニ油之算用ヲ考ヘ算

月
務
旨

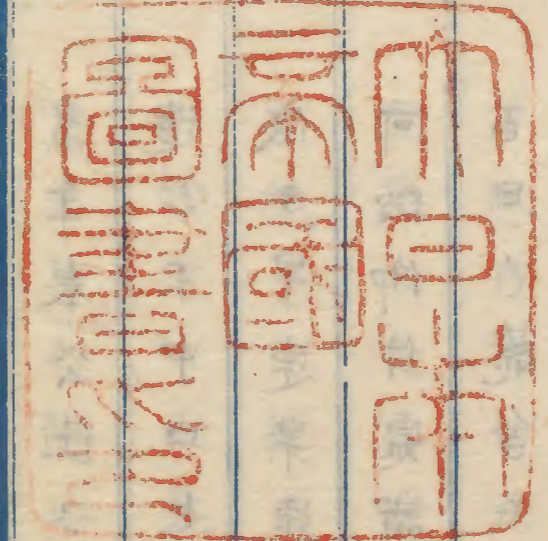
ヲ當テ御覽アルニ凡一ケ年ニ五百目程ノ利
潤ナリ出入以後兩年之葺用被仰付御覽アル
ニ右之通り之利潤ナリ右之五樽ヲ入ル時ハ
三百目ホトノ利例年ヨリ多ク見ユルニヨツ
テサテハ五樽ノ油受取手形ヲ不返モノナリ
ト思召サレカノ使ノモノヲ御尋ノ處ニ丹波
國池止之百姓ノ子ナリ此僕去年暇遣ニ付テ
差紙ニテ被召寄右之使ヲ首尾簿ニ申ヘシ偽
ニ於テハ曲事ニ可被行旨稠々仰ケレハ彼僕
驚キ其^時之使ヒ我等仕五樽ノ油慥ニ取越申也

多幸奉公仕ユヘ油問屋近付ニテ手形モ狀モ
遣シ不申口上ニテ申越ヨシ巨細ヲ述ケルニ
依テ早速早速露頭シ彼賣子籠舎被仰付追放
可被仰付處諸出家衆御詫事申サル、ニヨリ
百日ノ籠舎ニテ御赦免ナサル偕仰ニハ此度
油之賣子偽リヲ申問屋ヲ掠ル改罪科不輕闕
所被仰付追放ニ可申付處諸寺ヨリ違テ詫言
ニ付テ宥免スルナリ向後此ヤウノ輩アラハ
死罪ニ可被行ノ旨ナリ

右此八冊ハ京師野司代板倉氏之旧記ナリ



然公事擗之儀慈悲為根元矣可被行死罪者
為追放可及追放者菴舍也是賞者重罪者輕
之謂也勿論依罪之輕重而有差云々



明治九年

吉田敬顯

六月十四日

大野見松五校

同九年六月廿日

川口翔宸校

月務

和
省

同日
六月十四日
即日
吉因

